

がつ ぎょうじよてい 1月の行事予定



にちようび 日曜日	げつようび 月曜日	かようび 火曜日	すいようび 水曜日	もくようび 木曜日	きんようび 金曜日	とようび 土曜日
1 ・休館日	2 ・休館日 ・振替休日	3 ・休館日	4 ・仕事始め ・囲碁 ・ふれあい料理 教室① (当面の間中止)	5 ・貯筋体操 ・パソコン ・ふれあい喫茶 (当面の間中止)	6	7 ・囲碁
8	9 ・成人の日 成人おめでとう	10 ・フォークダンス ・各種相談日 ・周辺地域巡回 事業	11 ・囲碁 ・スマイルジュニア	12 ・パソコン	13	14 ・囲碁
15	16 ・囲碁 ・ふれあい料理 教室② (当面の間中止)	17 ・フォークダンス ・卓球	18 ・囲碁 ・スマイルジュニア	19 ・貯筋体操 ・パソコン	20 ・卓球	21 ・囲碁
22	23 ・囲碁	24 ・フォークダンス ・卓球	25 ・囲碁 ・スマイルジュニア	26 ・貯筋体操 ・パソコン	27 ・卓球	28 ・囲碁
29	30 ・囲碁	31 ・フォークダンス ・卓球				

あさひぶんかかいかん 朝日文化会館

か い か かん

会館だより

だい 478号 令和5年1月号

あさひぶんかかいかんれんらくさき
朝日文化会館連絡先
じゅうしょ しこくちゅうおうしみしまあさひ ちょうめ ばん ごう
住所：四国中央市三島朝日3丁目5番30号
TEL：0896-28-6070
FAX：0896-28-6104



【お知らせ】

あさひぶんかかいかん がいかん
【朝日文化会館の外観】

- ふれあい喫茶 (百円モーニング) 新型コロナが終息するまでの間、中止します。
- ふれあい料理教室①② 新型コロナが終息するまでの間、中止します。
- 周辺地域巡回事業 1月10日(火) 16時～、三島地域
- 各種相談日 1月10日(火) 10時～
- 仕事始め 1月4日(水)

じんけんそうだん せいかつそうだん こま はん はなし き
人権相談、生活相談、困っていること、何でも話に来てください。



きん が しん ねん 謹 賀 新 年



新年あけまして、おめでとうございます。コロナ禍ではありますが、コロナの終息を願い、新しい年をお迎えのことと存じます。会館としては、感染予防に努めながら、人と人が繋がっていける取り組みをできるよう進めていきたいと思っております。

「ブラボー！」「ブラボー！」サッカーワールドカップのカタール大会は大いに湧きました。1次リーグ初戦で日本がドイツに勝利した時、長友佑都選手が発した言葉です。イタリアでは日常の誉め言葉で使います。喜びに溢れていました。選手の活躍はもちろんですが、現地で報道されたもう一つは、日本選手とサポーターの行動です。選手が使った部屋を片づける姿、「ありがとう」のメッセージを残していく姿、サポーターが応援席のゴミを拾い清掃する姿の映像が流されました。人の心を打つものでした。自らの信念を持って行動する姿は、印象的でした。

カタール大会では、人権をめぐるもう一つの戦いがありました。カタール大会のスタジアムなどの関連施設の建設現場で、6千人超の出稼ぎ労働者が死亡したと国際人権団体などが指摘。これを受け、何千人もの命が犠牲にされた大会で目立ちたくないデンマーク代表のユニフォームには見えずらいデザインのロゴを採用。また、人権差別への同性愛を禁じるカタールに抗議しようとした声が封じられ、ドイツ選手は試合前口元を右手で覆い隠して抗議。人権をめぐる波紋は更に広がっています。日本で人権問題が大きく取り上げられず、積極的に発言するアスリートが少ないのはなぜでしょうか。



朝日新聞の記事を紹介いたします。「女性パートナーがいることを公表しているサッカー選手の下山田志帆さんは、ドイツで活躍していた頃に人種を揶揄された際、周囲が強く止めてくれた経験をした。差別に対し『間違っている』と即座に抗議できる雰囲気がある。一方、日本については、高校スポーツクラブの現状をあげ、選手はサッカーのことだけ考えればよい仕組みの中で育っていると指摘。スポーツ社会学の山本敦久教授は『欧米は多文化の中でプレーが当たり前になり、自分が社会的存在だと意識してい

る』。日本については、『スポーツに関わる人たちやメディアが言論空間を開いていくことが大事』と提言する」。

今、日本では禁煙の大切さが意識され、世の中で広く受け入れられています。喫煙者が多い世の中でしたが、禁煙が周知され世に定着しています。人権に対する意識を広め定着させたいものです。



「みんなが差別はいかんのじゃと思うようになったら差別はなくなる。」阿波の「でこまわしの中の三番叟まわし」などを伝承している辻本一英さんの言葉です。「世の中の差別を見抜く力・自分の中の差別を見抜く力・間違いだと言える力が日本に広まったら、差別はなくなる」と話されました。一人ひとりの差別への向き合い方が問われています。

四国中央市の人権・同和教育の授業では、どの学級も自分ならどうするか考える自分の生活を振り返る場面が、取り入れられていました。教職員の隣保館学習会は毎年実施し、自ら生き方について考え、推進者としての思いを高めています。また、社会教育部のパネルディスカッションでは、差別解消に向け自分の事として捉え、活動に繋いでいることを話されました。活動の広がりを感じました。自分自身の問題として捉え、行動していくことが差別をなくすことに繋がるのです。多くの人に人権・同和教育の正しい理解と認識が深まるように啓発活動を行うことが大切です。会館職員一同、いろいろな活動を通して人と人をつなぎ、人権と福祉のまちづくりの拠点となるよう努めてまいります。本年もよろしくお願い申し上げます。

館長 白田敏子

あさひぶんかいかんじんけん 朝日文化会館人権フェア

【作品展示】 令和5年2月4日(土)～2月5日(日)

9時30分～16時

【講演】 令和5年2月3日(金) 19時～

演題 「感性に問う人権・同和教育」～心の土を耕して～

講師 生涯学習課 社会教育指導員 星川ひとみさん

